

東京都立 多摩総合医療センター

「新年のご挨拶」と「がん連携登録医療機関」のお願い

都立多摩総合医療センター院長 青木 信彦



新年明けましておめでとうございます。

連携医療機関の諸先生はじめ職員の皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。都立多摩総合医療センターは府中病院から移転して2年が経過し、職員は一丸となってフル回転の病院運営に邁進しています。

この病院の3本柱は①救急医療②周産期医療③がん医療でございます。

- ①「救急医療」につきましては、以前のようなコンビニ受診は減少し、入院の対象となる重症患者や救急車搬送患者が増加しています。地域の先生方との連携が本物となってきた結果と言えます。
- ②「周産期医療」として、都立小児総合医療センターと共同で総合周産期母子医療センターを運営しています。これまで多摩地域には杏林大学病院のみでしたが、新たな本格的な周産期センターとして、“多摩のお産は多摩で”を合言葉に日々奮闘しています。
- ③今年の大きな目標は「がん診療の充実」です。都立多摩総合医療センターは昨年4月に地域がん診療連携拠点病院に認定されました。緩和医療の専門医師も新たに加わり、今まで以上にがん診療のレベルアップを目指しています。今年連携の先生方の施設には是非とも「がん連携登録医療機関」になっていただきたいと思っております。多くのがんは治癒あるいは長期生存が可能となりつつあります。医療連携の先生方には今後さらに増加するがん患者さんのかかりつけ医になっていただき、「がん連携登録医療機関」として都立多摩総合医療センターと手を携えて、がん患者さんが安心して診療の受けられる多摩地域の診療体制を構築してまいりましょう。

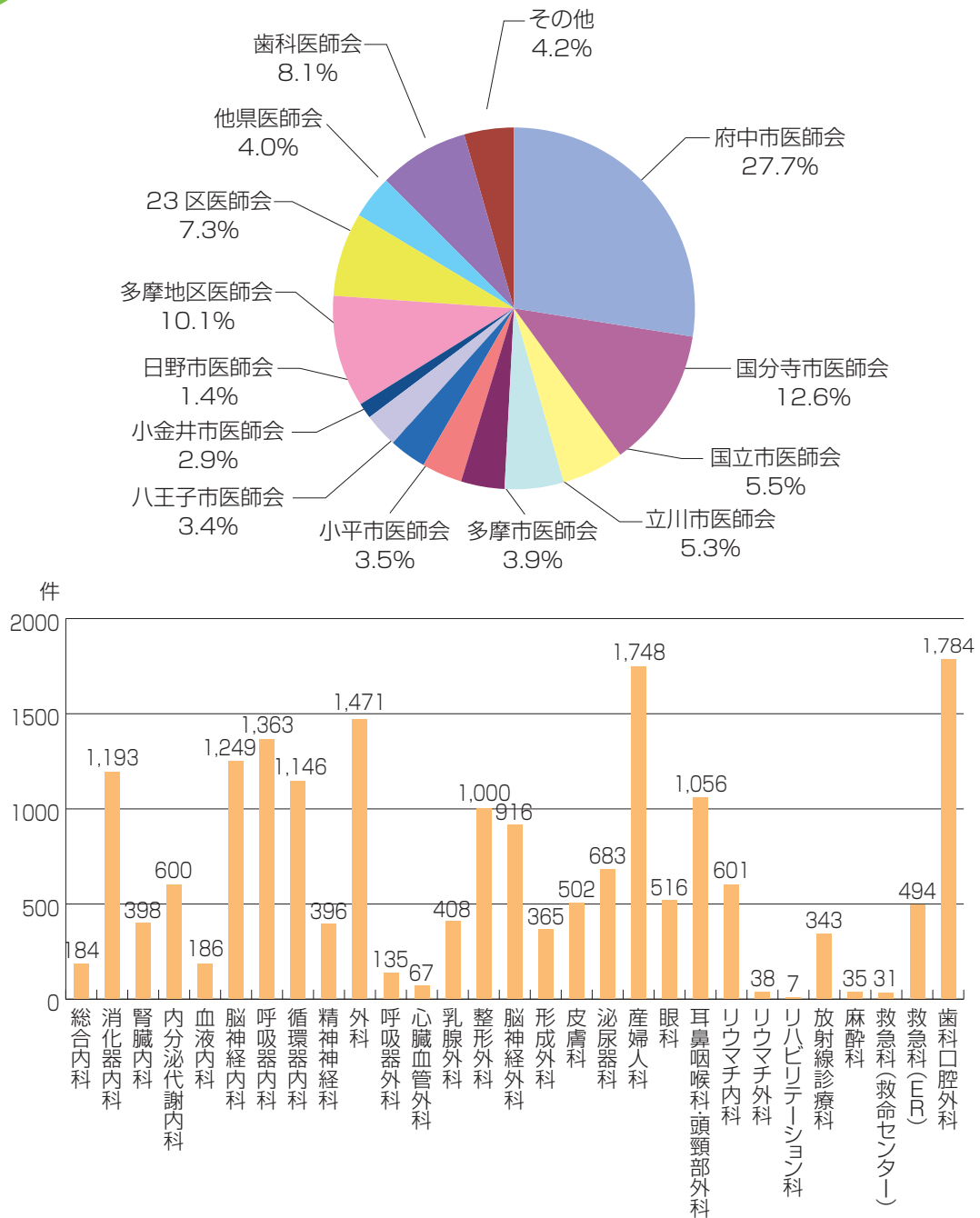
最後になりましたが、本年も皆様方のご多幸とご発展を心から祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。

平成24年 元旦



平成23年度(4月～11月)紹介元医師会と紹介診療科

4月から11月までの紹介件数は、18,917件でした。ご紹介ありがとうございました。



都立多摩総合医療センター 人事異動

【採用】平成23年9月1日付

精神神経科(非常勤)	繁友 律子
脳神経外科医長→(非常勤)	湯山 隆次
皮膚科(非常勤)	岸田 功典

平成23年10月1日付

脳神経外科医員	平岩 直也
産婦人科医員	北脇 佳美
産婦人科医員	日高 志穂
眼科(非常勤)	岩本 怜

【転入】平成23年10月1日付

リウマチ膠原病科医員	須藤 梓
------------	------

【退職】平成23年8月31日付

皮膚科(非常勤)	白井 浩平
----------	-------

平成23年9月30日付

脳神経外科医員	横矢 重臣
リウマチ膠原病科医員	桃山 現
産婦人科医員	木寺 信之
眼科(非常勤)	堀 寛爾

平成23年11月30日付

整形外科(非常勤)	國澤 弘之
-----------	-------

外来担当医のみ掲載しております。





内頸動脈高度狭窄に対する 頸動脈内膜剥離術 (CEA) が有効であった高齢者の一例

脳神経外科 医長 太田 貴裕

【症 例】 85歳 男性

【主 訴】 一過性呂律障害

【現病歴】 1994年 右脳梗塞発症し左不全片麻痺を認め杖歩行レベルであった。2010年春に数分～30分程度持続する呂律障害が2-3度出現しており、6月に通院中のかかりつけ医にて頸動脈エコーを施行された。右頸部内頸動脈に88%狭窄を認められ精査加療目的にて当院紹介受診となった。

【既往歴】 糖尿病、高脂血症、うつ病、左大腿骨骨折にて手術

【生活歴】 喫煙：60歳まで、10本/day × 40年

【初診時現症】 軽度見当識障害あり、明らかな脳神経症状認めず。左上肢 MMT 4/5, 左下肢 MMT 3/5 (左大腿骨頭手術後から)

【画 像】 頭部MRA (図A)：右内頸動脈の描出不良が認められる

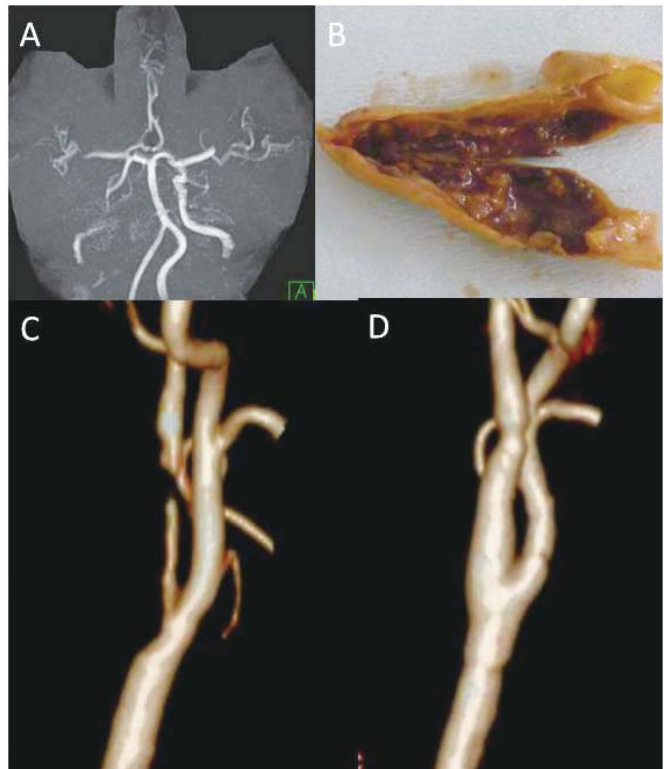
術前頸動脈3DCTA (図C)：右内頸動脈は分岐直後より著明に狭小化し一部に造影欠損あり高度狭窄が疑われた。循環器内科依頼し負荷心筋シンチ・心エコーをおこない全身麻酔に支障がないことを確認した。

【入院後経過】 上記所見より症候性頸部内頸動脈狭窄症と考えられ、2010年9月21日右頸動脈内膜剥離術 (carotid endarterectomy : CEA) 施行。プラーク (図B) は柔らかい粥腫であり塞栓源と考えられた。術後脳血流SPECTでは右側脳血流の増大を認めたが明らかな過灌流、虚血症状は見られず。術後3DCTAでも右頸部内頸動脈の十分な拡張を確認した (図D)。新たな神経脱落症状を認めず10月2日独歩退院となり外来フォローしている。


【考 察】 連携している多くの先生方からのご紹介を頂き当科では1997年から2011年9月までに481例552病変に対してCEAを施行した。全CEA症例の stroke morbidity = 1.8%であり、最近の約250例

では morbidity = 0% と良好な成績を残している。本症例は症候性内頸動脈狭窄症に対してCEAを施行し良好な転機を得た症例である。おそらく以前の脳梗塞の原因は右頸部内頸動脈狭窄部分のプラークからの塞栓 (artery to artery embolism) と考えられる。脳梗塞の発症形式としてアテローム血栓性、ラクナ梗塞、心原性塞栓症とに分類されるが、頸動脈エコーにて頸部内頸動脈の狭窄あるいは塞栓源となる不安定プラークや潰瘍形成の有無を精査することが必要である。以前の報告から症候性頸動脈狭窄は50%以上、無症候性頸動脈狭窄は60%以上の場合、内服加療よりCEAの方がより脳梗塞予防効果があることが知られている。最近では症候性頸動脈狭窄症 (Lancet 2010)、70歳以上の高齢者における症候性頸動脈狭窄症 (Lancet 2010) において頸動脈ステント留置術よりCEAがより安全で脳梗塞予防効果が高いという報告が相次いでいる。CEAでは術後の虚血性心疾患が重大な合併症の1つであるが、当院では術前に全例循環器内科に虚血性心疾患のスクリーニングを依頼し冠動脈狭窄病変あればCEAに先行して治療している。虚血性心疾患の管理を行うことで80歳以上の高齢者においても安全にCEAが施行でき、当科では年齢制限を設けず頸動脈狭窄病変に対してはCEAの積極的な治療対象となると考えている。

今後も頸動脈狭窄症の患者さんは増加していく見込みであり、連携している先生方には頸動脈エコーのスクリーニングをしていただき、上記のような所見があれば引き続き当科にご紹介いただければ幸いです。



●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

 医療連携臨床懇話会：平成24年1月26日（木）19：00～

- 不眠症の診断と治療（精神神経科医師）
- PSA高値症例の見方（泌尿器科医師）

を予定しております。

※詳細が決まり次第、別途ご案内いたします。

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

 糖尿病講習会（会場：都立多摩総合医療センター議堂フォレスト）

- 「糖尿病と脳梗塞」「尿検査」「脳梗塞予防の食事管理」
日時：平成24年1月18日（水） 午後2時から午後4時
- 「糖尿病と心臓」「心電図について」「糖尿病の運動療法」
日時：平成24年2月15日（水） 午後2時から午後4時
- 「糖尿病神経障害」「フットケアについて」「食事の自己評価方法」
日時：平成24年3月14日（水） 午後2時から午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携係（清水・戸田 内線2171）まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9：00～午後5：00

TEL：042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9：00～午後5：00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ずご一報ください。

可能な限り専門診療科をご指定の上、
担当医にご連絡ください。

東京都立多摩総合医療センター

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)

